

開会あいさつ

放送教育開発センター所長 加藤 秀俊

総司会者（放送教育開発センター研究開発部長 福井芳男） 研究開発部長の福井でございます。まず最初に、開会にあたりまして当センター所長加藤秀俊より、ご挨拶申し上げます。

加藤秀俊 おはようございます。加藤でございます。全国からご参加頂きまして、心から感謝申し上げます。ちょうど10回目になりますが、この10年を振り返りながら、且つ同時に私自身の個人的に体験したことを、ちょっと最初にお話し申し上げたいと思います。

私は今までの人生の中で、2つの大変劇的な場面に遭遇致しました。第1番目の劇的な事件というのは、1964年のケネディ大統領暗殺事件でございます。その時、私はアメリカのアイオワ州立大学で教えておりまして、朝、テレビのスイッチを入れて何となくニュースを見ておりましたら、テキサスからの中継で、ケネディ暗殺の現場が放送されていたのです。恐らく町の中で、私が唯一最初にその画面を見た数少ない人間の一人であったはずなので、私はすぐに友人たちの所へ電話しました。「大統領が暗殺された、まさか」と言うので、それから2、3時間のうちに町の中が騒然としてきました。その時は、実は日本がちょうどその当日に、初めて衛星による海外からの番組を取ることに成功致しました。つまり、最初に日本のNHKが放送した衛星によるリレー放送というのは、ケネディ暗殺事件でございました。これが第1番目の劇的な経験です。

2番目は、1967年の夏でございますが、この年私は、イギリスのケント大学で教えておりました。これはあらかじめBBCから予告があったのですが、そのときに初めて世界中の放送局が通信衛星のリレーによりまして、全世界放送という実験に成功したのです。時差の関係がございますから、国によっては朝になったり、国によっては真夜中になったりしておりますが、だいたいBBCの視聴時間に合わせて、確かBBCの午後8時から10時までの、イギリス人にとって大変都合のいい時間帯で放送されて、その頃日本の同僚たちは、恐らく明け方にご覧になってたんじゃないかと思うのですが、そういう番組を見ました。

それから早いもので、もう20数年が経過したわけでございますが、その間にさまざまな衛星が続々と打ち上げられました。正確な数を私は今、調べておりませんが、こうした通信衛星のみならず偵察衛星もございまして、気象衛星もございまして、もろもろの衛星が今、我々の上を飛び交っている訳です。

私共民間用に使われる衛星というのは、主として放送衛星と通信衛星でございますが、郵政省の方では、それまでございました、だいたい主として放送関係を管轄なさっておりました放送行政局に平行して、電気通信行政局というのが別れて設置されたように伺っております。つまり、放送行政局の方は、放送衛星も含めて、通常の中波による、私共が知っている放送を所管なさり、また、電気通信行政局の方は、通常の電話回線、光ファイバー、そして通信衛星等も所管しておられ、そのうえに官房の中には衛星課という課が1つできました。それほどに

私達を取り巻く電気通信環境は、この20年の間に大きな転換を遂げた訳でございます。

今日のシンポジウムは、午前の部、午後の部共に主催させていただいておりますのは、放送教育開発センターでございます。まさしく放送による教育というのを主眼にしている訳でございますが、電気通信の方にかなり力点をかけて、今回は企画されております。

そうした事を考えるにつけて、実は高等教育の領域というのは、この新しい電気通信技術を取り入れることにおいて、かなり遅れをとっているのではないかなという、個人的感想も持っております。ごく最近勉強したのでございますが、社会教育の領域では、例えば、福岡県と大分県の県境に大川町という町がございます。この町は、現在行われておりますNHKの放送衛星を一旦受信したうえで、CATVで配るのみならず、だいたい町が中心になりましてそのCATVを運営し、その中に社会教育番組も町民が手作りで創って送っている訳です。そのうえに大川町に参りますと、テレビの上に小さなチューナーが付いておりまして、そのチューナーは音声専用でございますから、常時5チャンネルぐらい流して、これは、ちょうど飛行機に乗った時のイヤホンと同じようなものなので、浪花節が聞きたければ浪花節チャンネルを押せばそれが聞こえますし、それから全部アドレス管理をしております、町役場から係長以上の人に全部何かを通達したいという時には、係長以上の所に全部アドレスが付いておりますので、放送局の側でボタンを押すと、そのチューナーの上に赤ランプがつく。そして、それは必ず聞かなければいけないというような、アドレス管理をも含んだニューメディアの活用が行われている訳です。私はそのお話を聞きまして、びっくりしました。

大川町は更に、農林水産省が管理しておられる衛星チャンネルをお使いになりまして、東京の光が丘団地と大川町とを結んで、生産者と消費者の間の対話もできるようにしています。大分は1村1品で有名な所でございますが、そんなふうにお互いに連携することが日常化しているのです。そういう社会変化の中で考えてみますと、どうも高等教育の分野というのは、電気通信における最後進地帯の1つのような感じがしないでもありません。

今日も企業の方々が何人か、こちらにご参加頂くことになっておりますので、多いにお教え頂きたいのでございますが、大きな企業になりますと、全国の支店を結んで全く同時に、単なる社長の訓辞のみならず、社員教育も衛星を通じて行っておられるというふうに承っております。くどくどと申し上げましたが、それから私が申し上げた事は、ひょっとすると極端な表現だったかもしれませんが、高等教育という、私共が関わっている領域でこそ、本当は先端的な事をやらなきゃいけないのですが、なかなか大学開放という事も思うにまかせないところもございまして、思い切って外部の方々にたくさんご参加頂くことにいたしました。ここで高等教育と新たな電気通信の技術というものの接点が求められれば幸せだと存じております。簡単でございますが、以上をもってご挨拶とさせていただきます。1日行き届かない事も多いかと存じますが、ご議論頂いて色々お教え頂きますようお願い申し上げます、ご挨拶と致します。どうもありがとうございました。